

直撃インタビュー!

会場には「あんぱん」の土佐ことば指導を務めた俳優・西村雄正さんが! お話を伺いました。



——東京編に移ってもこんなに土佐弁を使ってくれるがや!と感激しました。今田さんへの土佐ことば指導の時間が一番長かったと思いますが、放送が終わってみたいいかがですか?

今田さんとはクランクアップまで毎週練習を続けました。東京編では、監督からはどんどん土佐ことばを薄くしてと言われていたけど、今田さんと相談して、セリフの出だしは標準語にして途中から土佐ことばを混ぜていきました。のぶは最終週も土佐ことばで「はちきん」として最後まで走り切ってくれたので、高知県の人たちを楽しませてくれたと思います。

——ご自身も東京編のカフェの店長として出演されましたが、いかがでしたか?

特別編で輝きました! やりきりました!

——最後まで土佐ことばが使われた裏側には、西村さんのお力があったんですね!! お疲れ様でした。



昨年9月クランクインの様子

会場にいた南国市の皆さんにも直撃インタビュー!

- 3人が面白くて可愛かった!(植田・10代女性)
- 江口さんが後免を観光されたと聞いてテンションが上がりました。(大浦・30代男性)
- 普段はテレビを見ない夫が一番

主演・今田美桜さんからのメッセージ

高知にお邪魔するたびに、皆さんが温かく迎えてくださり、いろんな瞬間に皆さんの愛やエールを感じ、撮影を頑張ることができました。本当にありがとうございました。

朝田家が高知にもんてきた! 「あんぱん」ファン感謝祭



はらなのが 原菜乃華さん

いまだみお 今田美桜さん

えぐち 江口のりこさん

9月6日、高知市内で「あんぱん」ファン感謝祭が開催されました。最終回まで残り3週というタイミングで、当選倍率10倍を突破した約850名のファンが集まり、柳井のぶ役の今田美桜さん、辛島メイコ役の原菜乃華さん、朝田羽多子役の江口のりこさんが登壇しました。

丸1年の撮影を終えて

連続テレビ小説「あんぱん」は昨年9月の高知ロケで始まり、今年8月23日にクランクアップ。丸1年にわたる撮影を振り返り、今田さんは「大きなけがもなく終えられてホッとしています。久しぶりにお二人と会って、撮影当時の控室の感覚に戻りました」と笑顔で語りました。

羽多子さんの里帰り!

この日が羽多子として初めての高知訪問となった江口さんは、空港から会場までの道中に柳瀬医院跡地(やなせたかし・ごめん駅前公園)や、やなせさんの思い出の場所を巡ったとのこと。「車に乗ると勝手にツアーが始まっていて、とても面白かったです」と話してくれました。



健太郎のお相手は!?

ドラマの裏話として「当初は健太郎

はまっています。南国市が舞台でとても身近に感じました。(岡豊町・40代女性)

●南国市出身の瞳水ひまりちゃんが出演していたので、ワクワクして見ました。(緑ヶ丘・50代女性)

ドラマを通じて

全国の皆さんに南国市を知っていただく大きな機会となった「あんぱん」。この作品を通じて、少年時代を南国市で過ごしたやなせたかし先生の生涯や作品を改めて知ることができました。また、戦後80年の節目の年に、戦争の厳しい時代も丁寧に描かれたことで、「なんのために生まれて、なんのために生きるのか」を考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。

改めて—放送ありがとうございます! ほいたらね!

連続テレビ小説「あんぱん」ドラマ展 のぶと嵩のおらんく展

令和8年2月8日(日)まで
海洋堂SpaceFactoryなんこくで開催中



撮影で使われたシーソーの実物も!

「あんぱん」制作統括から一言!

9月29日、連続テレビ小説「あんぱん」制作統括の倉崎憲さん、広報プロデューサーの川口俊介さん、NHK高知放送局長の海老原史さんが来庁されました。

「あんぱん」の放送を無事に終えることができました。半年間、見守っていただきありがとうございました。南国市出身の瞳水ひまりさんにご活躍いただき、南国市との縁がさらに深まりました。ドラマは終わりましたが、いろいろな形で関わりが続いていくとうれしいです。



左から川口さん、市長、倉崎さん、海老原さん

名シーンの裏で

千尋(中沢元紀さん)がのぶへの思いを高(北村匠海さん)に打ち明けた、出征前のシーンのリハーサルを、今田さんは夫の若松次郎役の中島歩さんと一緒に見ている不思議な気持ちになったそう。また、のぶと嵩がようやく結ばれたシーンの撮影時にも、中島さんがたまたま来ていて、今田さんいわく「亡くなった主人に報告できたそうです。次郎さんとも特別な縁を感じますね。」



郎(高橋文哉さん)と結ばれるのは蘭子(河合優実さん)の予定だったことが明かされ、会場一同驚愕。健太郎とメイコの雲田気が良く、みんなが応援したくなって脚本が変わっていったそうです。原さんは、「健太郎さんとのシーンはラブコメのように、皆さんをキュンキュンさせたいという思いで演じました」と振り返りました。